

サロン 登美ヶ丘茶論(21)

2021年9月



右から令和山本、立民枝野
共産志位、社民福島の各氏



四野党共通政策に調印

◆ 忘れっぽい人へ

46年前の「サイゴン陥落」空港で起こった出来事が放送されているのかと思った。アフガンのカブール空港。いつの時代も軍隊が人々を最後まで守ることは無い。いつの時代もどこの国でも負け戦では真っ先に軍隊が逃げて行く。

コロナ渦でこの8月ほとんどの「平和のつどい」が中止となり、76年前の8月この日本で何が起こっていたか？多くの人々がまた忘れてしまっただろう。

『何度でも尋ねる。机をこぶしてたたきつけて尋ねる。俺たちは何のために誰の為に生きてきたか。あらゆる時にあらゆる人に聞くぞ。戦死した奴は何のために誰の為に死んだのか、と。』

笑うな若者よ、口元をゆがめるな老人たちよ。この問いには言葉では答えられないかもしれないが、目をそむけるな、俺たちを憐れむな、どんな絵も音楽も答えを教えてはくれないだろうが。それなのに何故尋ねるか？その理由は簡単だ。過去がなければ未来も無いからだ。川と川上が「関係ない」と言うのは余程の馬鹿者だ。

古い酒は舌を刺し昔の歌は心の傷を一層痛ませるが、俺は俺たちとあらゆる忘れっぽい人に聞き続けるぞ〜。何度でも尋ねる・・・』中桐雅夫 詩『忘れっぽい人へ』(秋山)

◆ 東登美ヶ丘にお住まいの「島 征一郎」さんが本を出版されました

琉球とヤマト(歴史の視座を求めて)・・・株式会社耕文社発行、8月26日発売
8月24日世話人会でお話をいただきました。



島さんは1941年大阪生まれ大阪市立大学経済学部卒業後、公認会計事務所を設立、1989年奈良に転居、2011年現役引退、自主学习で母上の故郷沖縄の歴史研究の結果を本にまとめられたもの。内容は琉球列島の石器時代より明治時代までをまとめられており、勉強の苦手な私でもずっと読めるものです。お話を聞き、沖縄本島、宮古島、奄美大島、3島しか行ったことのない僕でも少し歴史がわかりました。質問は？と言われたので、「島さんは今の沖縄の現状をどう思われますか？」と尋ねると、「そう質問されると思っていましたが、私は固定観念から「沖縄」を論じたくないのです。本でもそここのところはもう書けなくなり、大江健三郎の「沖縄ノート」について述べることで終わっています。」と言われました。なるほど本を読ませていただくと第4章沖縄の明治維新第9節奴隷解放論、琉球は日本縮図論等で歴史研究は終わり、付論1で日本における神国思想天皇神格化、付論2で大江健三郎と沖縄・・・で沖縄の戦後の歴史には全く触れていない。島さんに言わせれば「その成り立ちと歴史を知らずして沖縄を語るな」だろうけれど、僕に言わせれば「沖縄の現状を知らずしてその歴史等知る気にはならん」である。久しぶりに沖縄の話が聞けて面白かった。本の定価は1100円と税である。(秋山)

登美ヶ丘九条の会はこの秋18年目を迎えます。日本の平和憲法が、憲法第九条が、世界に輝く日が必ずやってくる。数えきれない人々の願いと血と汗で生まれた憲法第九条。変えてはならない、育て守らせねばならない・・・と考えて活動を続けています。

毎月第4火曜日午後1時半より、於登美ヶ丘公民館、世話人会議を行っております。

あなたの参加を歓迎します。マスクをして自分用スリッパ持参でおいで下さい。(世話人一同)

死にそうにならなきや病院入れない

加計には赤木ファイルはないのかな

来年の今頃もしや第10波

NHK政治ニュースは眉に唾

無節操手のひら返すコメント屋

宣言の方に免疫できちゃった



◆「市民連合」と4野党、衆院選に向けて6本の柱と20項目の「共通政策」に調印

「安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合」と立憲民主、共産、社民、れいわ新選組の4野党党首は9月8日、「衆議院総選挙における野党共通政策の提言一命を守るために政治の転換を」と題する野党共通政策を締結しました。曰く：「衆院総選挙で野党協力を広げ、自公政権を倒し、新しい政治を実現することは、日本の世の中に道理と正義を回復するとともに、市民の命を守るために不可欠である」；「野党各党はこの共通政策を共有・実行する政権の実現をめざすことを求める」；結びとして、この共通「政策を共有しその実現に全力を尽くします」と誓約しています。（編集者）

4野党が署名した共通政策 — 6本の柱と主な項目（全20項目から抜粋）

1. 憲法に基づく政治の回復 — 安保法制、特定秘密保護法、共謀罪等の違憲部分廃止、コロナ禍に乗じた改憲に反対
2. 科学的知見に基づく新型コロナウイルス対策の強化 — コロナ禍倒産、失業等の人や企業を救う万全の財政支援
3. 格差と貧困を是正する — 所得、法人、資産の税制や社会保険料負担見直し、消費税減税を実施
4. 地球環境エネルギー転換と地球分散型経済システムへの移行 — 石炭火力から脱却、脱原発、脱炭素社会を追求
5. ジェンダー視点に基づいた自由で公平な社会の実現 — 選択的夫婦別姓制度やLGBT平等法等を成立させる
6. 権力の私物化を許さず、公平で透明な行政を実現する — 森友・加計、桜を見る会疑惑等安倍・菅政権下で起きた権力私物化の疑惑について真相究明；日本学術会議会員を同会議の推薦通りに任命する；内閣人事局見直し、公正人事

◆ 立憲民主党「馬淵衆院議員との懇談会」に出席して

四野党共通政策（上記参照）を背景にして、奈良1区市民連合が主催した9月11日（土）男女共同参画センター「あすなら」で開かれた馬淵議員との懇談会からの報告です。



馬淵議員は、「野党4党による6本の柱には何ら異存はない、本当にいま必要な中心のエッセンスが入ったものと思っておりますので、力を合せて一緒にやって行きたい」と明言しました。このことは講演のあとの質疑でも再確認する発言があり、大変心強く聴きました。

その上で、同氏は先ず、菅政権最後の仕事として国会を直ちに開いて、①日本版EUA（緊急時使用許諾）法—目的外使用不可の薬剤（例えばコロナ初期症状によく効くと言われるイベルメクチン）の使用許諾、医師等以外によるコロナ・ワクチン投与を認めること—、②補償とセットで、県を跨いで人の移動規制対策、という対コロナ禍緊急対策を講ずる二法を9月中に決定せよ、と。

併せて、「本気で命を守る」当面の重点政策三点—①病床逼迫率解消策、②暮らしを守る点では、困窮者への現金給付と事業者への事後精算振り込み（ブッシュ型給付金）制度と債務免除（借金減額）での緊急支援、③景気回復策—消費税減税による需要喚起、の具体的提案がありました。

印象に残ったのは、十分な患者の受け入れを行わない公的病院（地域医療機能推進機構）の典型としてあの尾身理事長の東京厚生年金病院が例示されたこと。もう一つは、日本でワクチン開発が進まない理由として、戦前の帝国陸軍の防疫行政の支配下にあった四社だけが握ったワクチン開発の「大変な既得特権」が尾を引いているという話です。「日刊ゲンダイ」9/14付記事「非科学的コロナ専門家は帝国陸軍幹部とうり二つ」（上昌広 医療ガバナンス研究所理事長）でも、政府のコロナ対策から関東軍防疫給水部731部隊を連想しました。（もう少し詳しくは28日世話人会で報告）（石田）

「茶論」への御投稿をお待ちしています。どんな話題でも結構です。気軽に御投稿ください。掲載時、投稿者は匿名扱いとします。原稿は以下の世話人ポストへ放り込んでください：石田(松陽台 2-16-4 ☎46-0352)、赤沢(鳥見 2-5-1)、秋山(東登美 4-22-19)、藤田(西登美 4-17-4)、堀江(西登美 1-20-7)、宮田(鶴舞西 2-10-C505)、初谷(中登美 4-1 ローレル I -7-204)、森本(西登美 1-22-21)

登美ヶ丘九条の会



アベちゃんの言う「反日」にある腐臭

こりゃまるで「欲しがりません勝つまでは」

継続は力ずくなり原子力

「反日」と「非国民」との似た響き

黒塗りも重要業務財務省

よく制度知る官僚がする悪事